

令和 7 (2025) 年度
ジュニアゴルファー育成助成金事業
中間報告書



1.はじめに

当財団では、未来のプロゴルファー、日本・世界で活躍する選手を育成するため、全国のジュニアゴルファーを対象に競技活動や練習環境の向上を支援している。本年度採択された助成対象者から、給付期間中（令和7年度前半）の活動状況と成果、課題、今後の取り組みについて報告が寄せられたため、以下のとおりその概要をまとめます。

2.競技活動・大会成績の状況

各選手は全国・地域大会、ジュニアツアー、プロツアーリーグ予選会などに積極的に参加し、これまでに以下のような成果が報告された。

（1）自己ベスト更新や決勝進出を複数名が達成

スコアの安定やラウンド運びの向上が見られ、後半戦にかけて成績が伸びている選手が多くいた。

（2）全国規模の大会で上位争いを経験した選手も複数

四日間競技でも集中力を維持できる体力づくりの必要性を感じつつも、手応えを得たとの声があった。

（3）プロトーナメント予選会への挑戦も始まっている

一部の選手はプロツアーリーグ予選会（QT・プロアマ・予備予選）に挑戦し、上位通過や本戦出場を目指し練習を重ねている。

全体として、上半期は「課題の整理と改善の兆し」が見られる期間であり、支援により練習量の確保・コンディション調整・遠征参加が可能になったとの報告が多くなった。

3.練習内容および取り組みの変化

助成を受けたことで、選手たちは例年以上に計画的な練習に取り組めている。報告書からは、次のような傾向が確認できた。

（1）技術向上に向けた取り組み

- ・パター精度向上のため専門コーチの指導を新たに受け始めた選手
- ・苦手ショット克服のためスイングの基礎固めに集中する選手
- ・距離アップを目的とした下半身強化トレーニングの継続

（2）メンタル・戦術面の強化

- ・試合終盤の集中力維持を課題とする選手が多く、
- ・「4日間競技でも最後まで戦える体力とメンタル」を目指す声が多くなった。
- ・コースマネジメントの改善に取り組み、
- ・「攻めと守りの判断の質が上がった」との報告もあった。

（3）体力づくり・コンディショニング

- ・ウェイトトレーニング、体幹強化、柔軟性向上など、
- ・年間を通じて戦える身体づくりに積極的に取り組む選手が増加。

4.遠征・競技参加における助成の効果

選手・保護者からは、助成が活動の継続に大きな支えとなっている旨のコメントが多く寄せられた。

- ・遠征費の負担が軽減され、遠方の大会にも挑戦できた
- ・夏場の連戦を戦い抜くうえで、宿泊や移動の質が上がり、体力管理がしやすくなった
- ・練習環境や指導者の選択肢が広がり、競技力向上につながった

●保護者からは

「支援のおかげで、これまで参加できなかつた大会にも挑戦でき、成長を実感している」「遠征が続く時期でも安心して送り出せた」といった声も寄せられ、経済的支援が競技継続に直結していることが改めて確認できた。

5. 課題と今後の目標

選手たちから挙げられた今後の課題・目標は次のとおりである。

(1) さらなる技術向上

- ・パッティングの精度強化
- ・ティーショットの安定
- ・ミスショットの減少・距離感の安定

(2) 競技経験の蓄積

- ・全国大会での上位進出
- ・プロツアー予選会での通過
- ・レギュラーツアー参戦への挑戦

(3) 身体づくりと継続的な練習環境の整備

- ・長丁場の試合に耐える体力強化
- ・ケガをしない身体づくり
- ・トレーニングとラウンドの両立

各選手は、それぞれの課題に真剣に向き合い、後半戦に向けて成長の手応えをつかみつつある。

6. 支援への感謝の言葉

報告書には、選手・保護者から本財団の支援に対する感謝の言葉が多く寄せられている。

- ・「いつも応援いただき、ありがとうございます。支援のおかげで遠征に行くことができました」
- ・「サポートが励みとなり、より一層努力しています」
- ・「これからも感謝の気持ちを忘れず結果で恩返ししたい」

選手たちは強い責任感と向上心を持ち、支援を活かして日々成長している。

7. 総括

令和7年度前半は、ジュニア選手たちが各地の大会で経験を積み、練習面・精神面ともに大きく成長した期間であった。助成制度により、遠征参加や専門的指導の受講が現実的となり、競技力の底上げに直接つながっている。

後半の大会シーズンに向け、各選手は明確な課題と目標をもって練習に励んでいる。

当財団は今後も、ジュニアゴルファーが安心して競技に取り組める環境づくりを支援し、日本ゴルフ界を担う次世代選手の育成に寄与していく。

以上